関西詩人協会イベント2023 第1回「紅白詩合戦」

日　時：2023年6月3日（土）1時30分～4時30分（開場1時）
場　所：ドーンセンター5階　視聴覚スタジオ
大阪市中央区大手町1-3-49
TEL：06（6910）8500
京阪電車・地下鉄谷町線
「天満橋駅」より東へ300m

参加費：500円（会員・会員外共、当日受付にて）
詩合戦出場者の募集：16名（先着順）
※詩合戦出場者は会員のみとなります。
出場者は自作詩を1篇持参（朗読3分以内）

――プログラム――

開会のことば：関西詩人協会代表 左子真由美
第1部【紅白詩合戦】自作詩などの朗読をチーム戦で楽しむ。司会：船曳秀隆
休憩：15分
第2部【時代劇「平和を願う心音は」】
作・演出：安森ソノ子　出演：井谷吉信・山下忠彦・今関文夫・安森ソノ子
第3部【会員による5行詩朗読】テーマ「今日のわたし」　司会：市原礼子
閉会のことば：関西詩人協会事務局長 永井ますみ
終了：4時30分 … みんなで片付け

連絡・問合せ先：市原 090-8448-5373　ichiharatr@hotmail.co.jp
船曳 hidetakafunabiki@gmail.com
応募締切：4月30日「紅白詩合戦」「5行詩」ともに、申し込みは会報に同封のハガキにて。

「紅白詩合戦」チャレンジャー募集！
【言葉は出番を待っている！】

関西詩人協会初のイベント「紅白詩合戦」（詩のボクシング）に参加してみませんか。
簡単！観戦だれでもOK！観客もいないと盛り上がりません。お客様が審判員です。
来て観て、一緒に楽しみましょう。

★やり方
出場者16名がくじ引きで組分けをします。Aブロック（紅4人、白4人）、Bブロック（紅4人、白4人）に分かれます。個人勝ち抜き戦ではなくチーム戦で戦います。

1回戦！【個人・自作詩の朗読】
Aブロック紅白2チームが先にそれぞれ自作詩を朗読する。続いてBブロックも同様に。

2回戦！【4人で即興詩を作る】
くじで引いた言葉を生かしながら即興で詩を作り、作品やパフォーマンスの面白さを競う。
①その場で4人それぞれが言葉のカードを引く。
②詩の題にあうように、引いた言葉を入れてチームで協力して即興詩を作る。（作戦タイムあり）Bブロックも同様にする。

3回戦！【4人で即興の昔話を作る】
①その場で4人それぞれが言葉のカードを引く。
②与えられたお題の昔話になるように、引いた言葉を入れて、チームで協力して話を作る。（作戦タイムあり）Bブロックも同様にする。

総合点で勝敗を決める！
＊なお当日の進行内容は多少変更することもあります。

関西詩人協会会報

第109号 2023.4.1
発行者･左子真由美

① 第1回「紅白詩合戦」のお知らせ
② 文学散歩のお知らせ
③ 詩画展のご案内／資料、映像、写真の募集
④ 自選詩集第10集 合評会報告
⑤ 追悼・山田兼士さん
⑥ 新入会員の紹介／今後の予定／編集後記
⑦ 運営委員会の模様
⑧ 入退会／会員の活動／会員の詩書／会員発行の詩誌／団体の会報・図書／運営委員選挙
（敬称略）

文学散歩

幻の『司馬遼太郎 若江堤の霧』を歩こう

今年は司馬遼太郎生誕100年目になるそうですが、今回の文学散歩は元和元年（1615）5月6日【大坂夏の陣】で戦われた若江堤とします。東大阪の若江岩田駅から約1・9㎞の③木村重成墓（公園）までの往復をしたいと思います。

司馬遼太郎と言えば国民的作家です。作品は数知れずあり、映画化されたものも沢山あります。今回の『若江堤の霧』は講談社文庫『おれは権現』の中に収録されています。

日時：5月4日（木曜・祝日）13時集合
（昼食を済ませて下さい。駅周辺に色々あります。）

集合場所：若江岩田駅北6F
「男女共同参画センター（いこーらむ）」の第一研修室。

参加資料代：500円
参加希望はお葉書を返送ください。

行き方：
鶴橋駅発（近鉄奈良線西大寺駅行き各停）に乗車して12分位、若江岩田駅（各駅停車しか止まりません）下車。北出口から出るとすぐ前に「希来里（きらり）」というビルが建っています。左手の横断歩道を渡り、希来里のエレベーターで、6Fへ。

プログラム：
『若江堤の霧』テキスト朗読　13時30分～
大坂の陣解説と行程説明
（集合写真撮影）
14時30分出発 16時30分頃若江岩田駅帰着予定

コース：
【推定若江堤】線にほぼ沿って歩く（住宅が建っていたり道が行き止まりになっていたり「幻の」と名づけた由縁です）帰りは赤い点線
散歩距離　行き1・9㎞＋帰り2・6㎞＝4・5㎞
（ゆっくり歩きますので約2時間）

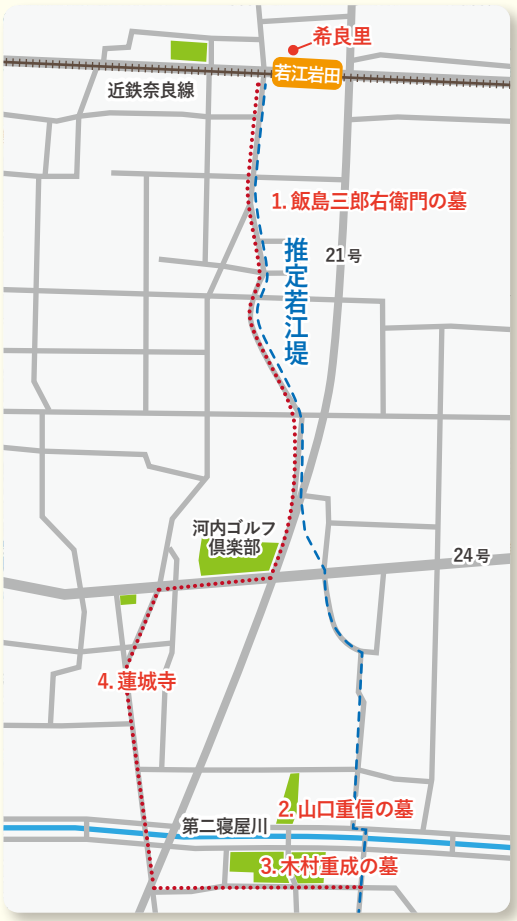
①飯嶋三郎右衛門の墓
東大阪市高井田村の生まれ。永禄11年（1568）ころ信長が河内を制圧したとき、それに従い、のち秀吉、秀頼に仕え、元和元年（1615）大坂の陣に際しては、木村重成軍に加わり山口重信と戦い、若江にて討死しました。この辺りは沼地で大小用水の集合地であり、今もこの下に楠根川に注ぐ地下水があるといいます。三郎右衛門の子孫が岩田村に住みこの墓を建てました。

②山口重信の墓
徳川方武将山口重信は豊臣方の武将木村重成軍と戦い、討死しました。26歳だったそうです。山口重信の墓は、死後33回忌、正保4年（1647）に弟の山口弘隆によって建てられました。碑は高さ3・33m、幅92㎝、亀趺（亀の背）上に建っています。

③木村重成の墓
木村重成は、大坂夏の陣若江の戦いで討死した豊臣方の武将です。以前は山口重信の墓と向かい合っていました。第二寝屋川の工事により現在地に移されました。明和2年（1765）、重成の150回忌に際し、重成の首を落とした安藤長三郎の子孫にあたる彦根藩士・安藤次輝によって建立され、重成の尊崇者からは「無念塚」と呼ばれています。

④蓮城寺（木村重成の肖像画があります）
日蓮宗の寺院で、正保元年（1644）焼失。元禄6年（1693）、再建。木村重成の位牌がまつられています。蓮城寺の近くは「木村重成陣屋跡」と想定されています。蓮城寺は、重成の戦死により、重成の叔父の蓮性院日相上人が京都から若江に出て創建したものです。重成の位牌は隣の「若江鏡神社」からもたらされたもので、妻・青柳の位牌は、蓮城寺で日蓮宗の方式に則り作られたものです。

今回取り上げていませんが、若江城跡があります。南北朝時代、河内国守護職になった畠山氏によって築城されました。15世紀の中ごろ、畠山氏の家督をめぐる争いは戦国時代の口火となりました。
また交通の要衝でもあり古い道標も保存されています。
帰りは（赤い点線）元気があれば歩いて、なければ近鉄バス乗車です。（20分位おきに走っています）



〈朗読者募集！〉
この文学散歩の『若江堤の霧』をテキストとして作っています。関西詩人協会会員の方有志に朗読して頂きたいと思います。先着5～10名ぐらいを予定していますので、会報に同封するハガキの〈朗読希望〉の処にチェックを入れて返送してください。

多彩な詩とコラボするアート

関西詩人協会主催
2023年秋・第33回詩画展のご案内

今年の詩画展は、準備不足で春は見送ることにしましが、秋の開催を企画しました。会場は、以前に使っていた会場「スペースふうら」で開催しようという世話人の間で提案され、この議題が「運営委員会」で承認され実行したく思います。会場の詳細は、下記の通りです。出展まで、かなり日時がありますが、ご参加申込のほどよろしくお願いいたします。

展示期間：10月1日（日）～7日（土）
開館時間 午前11時～午後5時30分

搬　入：10月1日（日）午前9時より。
展示前に作品の写真撮影。
ご自分で搬入できない場合は、配達日指定：9月30日午後で「スペースふうら」に送ってください。
参加費1000円は同封してください。

搬　出：10月7日（土）午後2時より搬出。
終了後に懇話会を開催します。
託送を希望される方は宅急便着払い伝票を同封してください。

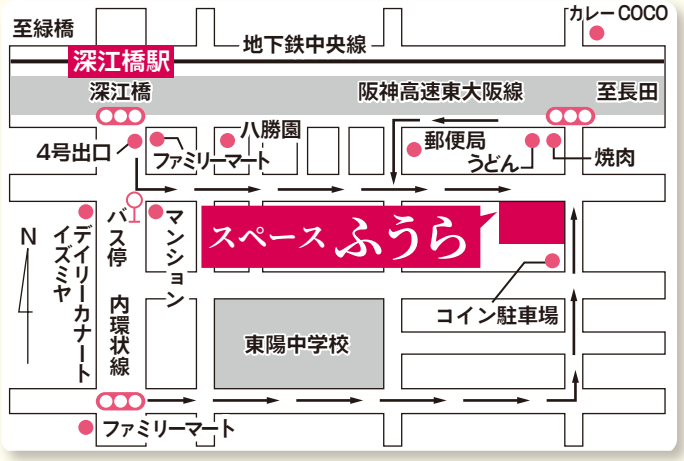
他展示：近刊詩集・詩誌等は、会場に各自置いてください。

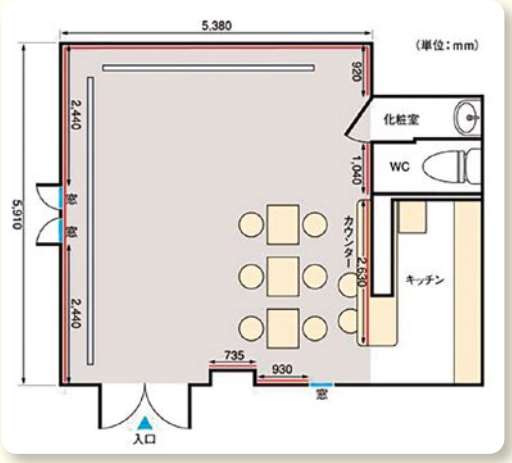
会　場：スペースふうら
大阪市東成区深江北3-4-11
電話090（122）3712
＊地下鉄中央線深江橋駅4番出口　下車5分

会　費：（作品1点）1000円
展示スペースの関係で参加申し込みの先着順26名迄となりますが、ご了解願います。

問合せ：TEL・FAX
吉田定一　080（5008）2515
Yosida19411002@yshoo.co.jp

和比古　0798（72）9308
hirao@chem.eng.osaka-u.ac.jp
美濃吉昭　06（6573）1882
mino213@ares.eonet.ne.jp





30周年DVD作製に向けて
創立から1999年まで5年間の映像を求む！

関西詩人協会は来年度に30周年を迎えます。「記念誌」を作ると共に、今迄の活動を2時間DVDに纏めて同時に発刊する事になりました。多分、日本中のどの会にもない形なので、張り切っています。永井が編集したビデオや写真をフォルダに集めていますが、ビデオファイルや写真は2000年からのしかありません。

そこで1994年創立から1999年までの5年間の資料や写真を求めています。関西詩人協会会員の皆様や、すでに退会された方も含めて、お手持ちの写真をお借りしたいと考えております。写真は必ずお返ししますので、御協力をよろしくお願いします。

※写真の裏に「撮影日付とイベント名」「所有者のお名前」をご記入ください。

【送り先】
〒651-1213 神戸市北区広陵町1ノ28 石井方
永井ますみ 宛

自選詩集 第10集 合評会報告

1月29日午後1時30分～5時、国労会館中会議室にて、表記合評会を行いました。参加者21名。広めの会場で11名と10名の二つのグループに分けて話合いをしました。その内容はそれぞれの胸に落ちた事と思いますが、ここではその概要を報告します。自選詩集参加された方が対象ということで会場費は徴収しませんでした。

＊グループA：
永井ますみ・阿部由子・井上良子・遠藤カズエ
河合真規子・北口汀子・紀ノ国屋 千・藤原功一
船曳秀隆・安森ソノ子・田島廣子（11名）

＊グループB：
高丸もと子・青葉みなと・内田 縁・嵯峨京子
阪井達生・下前幸一・森下和真・福田ケイ
山本由美子・吉川悦子（10名）

プログラム

最初の挨拶 永井ますみ

合評方法について解説 高丸もと子

合評会 クジの「1」の人から合評の対象になり、まず作製意図を発言した後、左回り全員に意見を伺う。

グループ毎と全員の集合写真撮影
（会後メールで配信）

終了の挨拶 森下和真

感想メールより

・いろんな詩があるなーっておもしろかった。

・他の作品に対する思いやりや共感に、心晴れる思いがしました。関西詩人協会の新たな取り組みへの企画力にも感謝。

・大変得るものの多く、すばらしい感性や感受性と出会えてうれしかった。

・まったく新しい様々な視点での解釈やご意見を伺い、刺激を受け、多くのことを教わりました。今後の創作意欲につながります。お顔と御作が一致して一気に距離が縮まり親しくお話しできるきっかけになりました。

・今後、このような形式の素晴らしい合評会、ダベリング会が開かれる事期待します。

・背景、想いが語られその詩をより深く味わう事が出来ました。自分の詩に対しても色々な角度から意見を頂き充実した時間になりました。

・皆様真剣に詩に向き合っておられて感動的でした。

・よくご意見を述べられたことに圧倒されました。またそれぞれの作品を各自読み込んでおられました。その場に来る。そして人の声を聞くということは大事なことだと思います。

・合評会で感想・批評を聞く機会がある事で、関西詩人協会の会員や自選詩集や協会自体が、奥行きのある存在になったと思います。

・普段とは違うメンバー、雰囲気ということで、詩を考える新たな視点がいろいろともたらされて貴重な経験となりました。悩ましい点は、自分の話をするのにとても長い方がおられることです。

・知らない方の話を聞くのも新鮮でいいですね。次に会った時は、もう知らない人ではないというのもいいですね。皆さんの感想を聞かせていただいた最後に、もう一度本人が話せる時間はほしかった。1グループの人数がもう少し少なめの、7～8人がいいと思いました。

【追悼・山田兼士さん】

私の恩師

犬飼愛生

山田兼士先生がご逝去されてから、いくつかの媒体から追悼文や追悼詩を依頼された。教え子といえば、と私のことを思い出してくださる方が多かったのかもしれない。多くの教え子がいる中で私に声をかけてくださることは本当にありがたいことだ。

山田兼士先生との出会いは私が大阪芸術大学の文芸学科に入ったことで始まった。高校三年生の後半になっても大学の志望校を決められなかった私に、母が勧めてきたのが大阪芸術大学だった。母が見せてきた大学情報誌に「詩のゼミ」の一文を見つけたときに、ここだ、と思った。大学で詩を学べるところがあるなんて。オープンキャンパスはとっくに終わっていたが、ここに絶対入るんだと思って願書を出した。

大学の山田先生の詩のゼミは思っていた通り、とても楽しく毎回楽しんで出席した。思えば、当時山田先生はまだ四十代だったが胃がんの手術から復帰されたばかりだった。詩のゼミを選択する学生は多くはなかったが、そのぶん合評は手厚く学生たちの個性を認めてくださった。先生は推敲することが大事なんだとおっしゃられて、ひとつの作品を何週にも渡ってみてくださることがあった。そうして私たちは自分の作品と向き合って、仕上げていくことの大切さを覚えていった。

ゼミでは『別冊・詩の発見』という冊子を発行していて、それは学生作品と先生の人脈を生かしたゲスト詩人の執筆による非売品の冊子だったのだが、それを派生させ、商業出版したのが詩誌『びーぐる』である。商業詩誌『びーぐる』を創刊したことは、山田先生の大きな仕事のひとつであると思う。先生は『詩学』が廃刊したあと『現代詩手帖』と『詩と思想』のほぼ二つの商業詩誌しかない状況に危機感を覚え、若い人たちがでてくる場を作りたいとの思いから編集同人四人（山田兼士・高階杞一・細見和之・四元康祐）という珍しい形で『びーぐる』を創刊させた。二〇〇八年の創刊以来、これまで一度も休むことなく発行し続けてこられたのは、ひとつは山田先生の人脈の広さが理由にあると思う。多くの執筆者が山田先生の人脈によってその時々の依頼を受けてきた。それゆえに、『びーぐる』は多彩な特集を組むことができたともいえる。

大学を卒業したあと、私は詩に対する支えを失ったような気がして、当時先生が講師をされていた大阪文学学校に入りたいと先生に直接相談したことがあった。先生は「まぁ、犬飼さんにはもう全部教えましたからねえ、入らなくていいですよ」なんて言って、断られた。そうなのか、と思ってちょっとショックだったけれど先生を通して関西詩人協会というものがあるのは知っていたから、やっぱりなんらかの支えが欲しくて私も関西詩人協会に入会することにした。大阪文学学校と朝日新聞社が共催している小野十三郎賞の授賞式の翌日、当時選考委員をされていた小池昌代さんを関西詩人協会の総会時のゲストに呼んで対談をセッティングしたり、山田先生は関西詩人協会にとってもいろいろと尽力された。まだまだこれからも、きっと活躍してくださっただろうと思うと、このたびのことが本当に残念で寂しくてならない。

山田先生のご逝去に動揺していた私に友人がかけてくれた言葉がある。「恩師と呼べる人がいるなんて、あなたはとても幸せなんだよ。その山田先生の教え子であることに恥じないような詩人になるのがあなたの役目だよ」。本当にそうですよね、先生。私の先生になってくださって本当にありがとうございました。まだ空からみていてくださいね。私はずっと書いていきますから。

新入会員の紹介

三ノ宮駅

田中啓一

遠い昔を思い出すのが日課になってしまった
父も母も生きていて私と妹は小学生
阪神電車の三ノ宮駅で降りて地上に出ると
傷痍軍人が二人
一人がアコーディオンを弾き
足のないもう一人の人は四つん這いの姿勢で
道に顔をつけんばかりにしている
顔の前には弁当箱が置かれ、貨幣が入っている
二人とも白い寝間着のような着物を着て
兵隊さんの帽子をかぶっていた
私は見過ごして通り過ぎたのだろうか
五円玉や十円玉を入れただろうか
父も母も何も言わなかった
元町まで歩き
デパートでおもちゃを買ってもらう
日曜日のたまの楽しみだった
「さあ、わしら、今日、稼いでくるで」
案外陽気な気分で街頭にいたのかもしれない

田中啓一（たなかけいいち）
一九四九年、神戸市長田区生まれ。二〇年前に札幌から京都嵐山に転居し、関西に帰郷できたと喜びました。今回、貴会に詩人と見なされ入会いたしましたことで、本当に帰郷したのだなと感慨ひとしおです。

今後の予定

■詩の実作講座

・4月8日（土）午後2時～5時
第477回「家持と立ち上がる万葉集」①万葉集概論
講師 永井ますみ

・5月13日（土）午後2時～5時
第478回 PO188号を読む　講師 尾崎まこと

・6月10日（土）午後2時～5時
第479回 花の詩　講師 左子真由美

場　所：あべのベルタ3階
大阪市民学習センター会議室
（大阪市営地下鉄谷町線「あべの」駅下車すぐ）

参加費：1000円

■詩を朗読する詩人の会「風」

・4月16日（日）第530回 ゲスト 江口 節さん

・5月21日（日）第531回 ゲスト 細見和之さん

・6月18日（日）第532回 ゲスト 田島廣子さん

時　間：午後2時30分から5時まで

場　所：「円山珈琲倶楽部」TEL 06（6351）0599
〒大阪市北区天神橋2北1-7
地下鉄「南森町」、東西線「大阪天満宮」駅下車　③番出口上がる徒歩1分

参加費：1000円

連絡先：榊 次郎 06（6574）1085

■第31回詩の教室　和歌山ボランティアサロン
選定詩集 吉田健一『砂宇宙』（澪標）

連絡先：EARTH POEM PROJECT
代表 中尾彰秀 0734（22）7248

■『現代生活語詩集2022・地球』朗読会
『現代生活語詩集2022・地球』の朗読会が北上市の日本現代詩歌文学館で開催されます。2021年に開催予定だったのですが、コロナ禍で中止となりました。今回は詳細は未定なのですが、日程だけ決まりましたのでお報せします。朗読参加はアンソロジーに不参加の方もOKですので御連絡ください。

期　日：2023年6月24日（土曜日）

場　所：日本現代詩歌文学館講堂

連絡先：現代生活語詩の会代表
永井ますみ 090（4289）8225

～編集後記～

今年の冬は電気、ガス代が恐ろしかったので、暖房器具はパネルヒーターのみで過ごしました。ヒーターと言っても室温6度の中では大した温かさにはならないので、とりあえず厚着をして、冬の冷たさをやけくそで楽しんでいました。氷の浴室に氷のお布団です。そんな日々を過ごす中で、気がつくと春の兆しがあらわれてきました。厳しい寒さを乗り越えて感じる春は、うれしさもひとしおです。

（会報担当　森下）

運営委員会の模様

2023年度 第1回関西詩人協会議事録

日　時：2022年12月17日（日）13時30分～16時
場　所：国労会館
出　席：10名
議事進行：島

1．各担当の2023年度計画及び当面の取り組み

①入退会報告
入会者1名　退会者4名　ご逝去2名
承認後の会員数220名

②会計報告
会計報告の承認
自選詩集の未納者には振込用紙にて督促

③会報
1月6日発送作業

④ホームページ
アクセス数59401（+323）
会員の詩 1月あたるしましょうご中島省吾
寺沢京子・播磨カナコ
会員のエッセイ10月いしだひでこ・11月志田恵
・12月来羅ゆら

⑤詩のひろば　休刊中

⑥文学散歩
来年5月頃予定東大阪　司馬遼太郎

⑦詩画展
来年10月頃予定

⑧詩のイベント
詳細は4月の会報で

⑨『関西詩人協会自選集』
合評会
1月29日（日）国労会館1時半～
（担当：永井・高丸）

2．その他
・総会出欠に伴うハガキアンケートについて
・総会の反省点
・関西詩人協会設立30周年について

（書記　高丸）

2023年度 第2回関西詩人協会議事録

日　時：2023年2月12日（日）13時30分より16時30分
場　所：国労会館
出席者：11名
議事進行：島

1．各担当の2023年度計画及び当面の取り組み

①入退会報告
入会者1名　退会者ありません
承認後の会員数221名

②会計報告
会計報告を承認　長期未納会員の確認

③ホームページからの報告
アクセス数+558件　10月6日から2月10日まで。
会員の詩 2月1日より熊井三郎、尾崎まこと、根来眞知子
会員のエッセイ　1月 村野由樹　2月 木村勝美

④詩のひろば　休刊中

⑤文学散歩（詳細本紙）
幻の『司馬遼太郎　若江堤の霧』を歩こう。5月4日（祭）13時から。近鉄奈良線「若江岩田駅」北「男女共同参画センター（いこーらむ）」集合。

⑥詩画展（詳細本紙）10月1日から7日まで開催。
場所スペースふうら

⑦詩のイベント（詳細本紙）
6月3日1時半開催。場所ドーンセンター

⑧『関西詩人協会自選詩集』の合評会報告（詳細本紙）
参加者21名　国労会館3階で。一人15分の時間を保証し、全員に発言していただいた。参加者から3年に1回ではなく、詩の合評の場があればとの意見あり。

⑨会報
会報109号は4月1日発行。原稿の締切りは2月末。

2．その他

①関西詩人協会創立30周年記念誌
来年度の事業ですが、「映像で振り返る30年」というDVDを作成する。
広く会員から映像素材か写真を集める必要がある。

②選挙管理委員会の選出
任期満了による、次期運営委員会選任を9月に行い、次期総会で承認を受けなければならない。そのために運営委員から選挙管理委員を選出した。
委員長 島委員　嵯峨委員
会員からの3名の選出は次回の運営委員会で行う。

③次期代表の選出
規約に基づき、代表選出のため検討を始める。

（書記　阪井）

【入会】

田中啓一

吉井 淑

【退会】

大園千代子、おれんじゆう、佐伯洋、徳永遊

【ご逝去】

清水一郎（2022年4月）、山田兼士（2022年12月）

【会員の活動】

井上良子 第46回児童画国際交流展主催。（3月28日～4月2日 京都市美術館 別館2階）関西二科展に出品。（4月11～16日 京都京セラ美術館）

田島廣子 令和5年2月20日、21日に実施の中部近畿公認指導者研修会民踊で4級検定試験に合格した。

中尾彰秀 12月3日第64回和歌山文芸まつりに於いて和歌山新報社賞（詩）を受賞した。

西田 純 杉並混声合唱団が第46回定期演奏会で、西田 純の詩「うたいたい」（作曲は和泉耕二氏）を合唱曲として演奏されました。（東京都、杉並公会堂。昨年9月18日）

安森ソノ子 2月26日京都コミュニティ放送の理事、編成委員に総会にて本年も選出された。ユーチューブでの安森ソノ子CHを2年前に立ち上げ、日本の伝統芸能、新作の詩等を適宜英語説明も交え送信している。

まほろば主催の新作歌曲による第17回コンサートが3月5日に茨木市民総合センターであり、左子真由美、下田喜久美、髙丸もと子、西田純、瑞木ようの詩が歌われた。

【会員の詩書】

- **日本現代詩選2022（通巻第40集）日本詩人クラブ**
- **中島省吾『あたるしましょうご』（Kindle版 オオカミ編集室2023年1月6日）**
- **紀ノ国屋 千 詩集『美と伴に』（竹林館）**
- **高丸もと子絵本『トナカイおおかみロン』（みらいパブリッシング）**
- **馬渕兼一詩集『赦されて』（ブイツーソリューション）**

【会員発行の詩誌】

アリゼ 第212・213号 以倉紘平
異郷62号 村上久雄
苺余果 177～178号 藤の樹々（藤本数博）
イリヤ 22号 尾崎まこと
銀河詩手帖 315号 近藤摩耶
軸 145号 榊次郎
指名手配 第6号 佐相憲一
新燎原 45号 小林尹夫
ふ～が 49号 竹内まさき
Messier 60号 香山雅代
RAVINE 217号 牧田久未
リヴィエール 186号 正岡洋夫

【団体の会報・図書】

秋田県現代詩協会 会報607号
秋田県現代詩年鑑2023
いちご通信（大分県詩人連盟会報）第34号
岩手詩人クラブ会報 第101号
岡山県詩人協会だより 37号
香川県詩集 第26集 2022年度版
熊本県詩集2022（16集）
埼玉詩人会会報 101号
静岡県詩人会会報 147号
千葉県詩人クラブ会報 NO.260
栃木県現代詩年鑑2022
とっとり詩人 第43号
長野県詩人協会会報 152号
日本現代詩人会 会報 168・169号
日本詩歌句協会 会報 47号
日本詩人クラブ 詩界通信 101号
ひょうご現代詩集2022
福井県詩人懇話会 会報 109号
福岡詩人会会報 184号
福島県詩人会 会報 130号
宮城の現代詩2022
横浜詩人会通信 325号

〈事前告知〉

次期運営委員の選挙があります!!

次号の7月会報と一緒に、次期運営委員20名と会計監査委員1名を選ぶ、投票用紙を同封させて頂きます。
会員の方は必ずご投票下さい。

- **投票用紙の送付**：次号7月会報に同封
- **投票の締切**：**7月31日**
- **記載要領**：被選挙人名簿から次期運営委員20名と会計監査委員1名を選び、投票用紙に記載、同封の返信用封筒にて返送。（記載は20名以下でもOK）

次号7月会報で送らせて頂きますので、皆さんご投票の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

関西詩人協会選挙管理委員会

関西詩人協会会報 第109号 発行者・左子真由美
【関西詩人協会事務局】〒651-1213神戸市北区広陵町1-28
永井ますみ TEL 078(581)9582
※次号の原稿締切は5月末日です。
会報・森下和真 **Mail:morishita62r@gmail.com**